



一番いい時!?

花を愛でるのが好きだった近所のおばあちゃんは、会うといつも声をかけてくれました。

結婚して間もない頃、大きなお腹で歩いていた時、長男をベビーカーに乗せての散歩中、ヨチヨチ歩きの息子を追いかけていた時、セリフは決まってる。



羽ノ浦町 今川 千春さん

「今が一番いい時やなあ。」
「今が一番いい時やなあ。」
「今が一番いい時やなあ。」
「今が一番いい時やなあ。」

「今が一番いい時やなあ。」
その頃の私は、寝不足で、ゆっくり座る間もなく、自由な時間など全くない状態で、その言葉に、今ひとつ納得していませんでした。でも最近、まだ首もすわらないひよひよの赤ちゃんや、ひっそりと母乳を与えているお母さんを目にした時、

「いいなあ。いい時やなあ。」
と思うことがあります。

自分の忙しかったことや大変だったことは、すっかり棚の上にあげ、嬉しかったことや心穏やかだったことばかり思い浮かべているのです。

今日も朝から声を張り上げ、仕事から帰ると即、夕飯の支度をしつつ、宿題の音読を聞き、子どもたちが眠

「今が一番いい時やなあ。」

「今が一番いい時やなあ。」

と目を細めている先に、どんな光景があるのか。想像するとなんだか笑ってしまいます。

次は、那賀川町の坂田浩子さんにお願いします。

市民文芸

短歌

平成23年阿南市春季短歌大会 作品

福寿荘に落ちつき暮して十幾年初めて眺むるこの銀世界

近藤 千代

庭師来て松、檉、榎と刈られゆき身軽くなりて透かす大空

棚野 久子

濡れ羽色更に艶だし雪の野を意気揚揚とカラスは歩く

佐野 幸子

娘には娘の思ひのありて夢語り火中の栗を拾わむとて発つ

福岡 孝子

祈るごと少しうつむく黄水仙津波のニユース流るる部屋に

山根千代美

安全だ安全と言ひし原発の恐怖うず巻く模索す人も

大石 建子

空の青きらきら光る太陽よしだれ桜の中に濡れいる

俳句

阿南市俳句連合会選

新米の袋座敷にまで積まれ

阿部 雅代

高年よ大志を抱け蚯蚓鳴く

陶久 晴義

新涼や実況放送腰に吊り

山根 溪風

鍬の柄に購入日づけ小鳥来る

稲村 耕作

句読点なし今生の虫しぐれ

小松 藍

トラクター刈田の匂ひ返しゆく

湯浅 芙美

齒科院の泣き声高き夏休み

奥田 蒼朗

秋風や舟べり叩く水の音

阿瀬川ミサエ

みちのくの無念を思ひサンマ焼く

品川 重晴

蜘蛛の囀の端のはずれてゆがみをり

加藤 睦子

川柳

阿南川柳会 高木旬笑 選

風向きで隣家の夕餉香り立つ

岡本 福笑

足腰の代わり達者になった口

臣守 愛香

二番手につけて根回しなどいらぬ

野村 敏子

嘘じゃない写真に痩せている私

佐野 智子

逆境を越えた言葉に出る丸み

持木 寿栄